

**平成31年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)**  
**成果報告書**

団 体 名	和歌山市芸術創造発信フェスティバル実行委員会	
施 設 名	和歌山市民会館	
助 成 対 象 活 動 名	普及啓発事業	
内定額(総額)	5,861	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人 材 養 成 事 業	0	(千円)
普 及 啓 発 事 業	5,861	(千円)







## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p> <p>国民誰もが等しく受けられる権利として文化芸術による喜びや感動は人を元気にし、まちの元気につながる！とし、地域の文化拠点としてのミッションを掲げ事業を実施した。多様な実演芸術が可能なホールの特性を活かし、地域のアマチュア実演芸術団体によるオペラ・オーケストラ公演、地元出身の落語家による落語公演や市民参加型の演劇講座といったジャンルにとらわれない事業により、地域の多様な文化芸術の普及促進、市民のやりたい・見たいを実現し、誰でも文化芸術に触れられる機会の創造に取り組んだ。その中で、オーケストラの訪問演奏会は、秋以降はインフルエンザなどの感染予防対策で訪問できないなどの理由で実施ができなかったが、令和2年度については既に日程調整済みである。2021年に和歌山県で開催される国民文化祭・全国高等学校総合文化祭（全国高等学校演劇大会）、新しい和歌山市民会館の開館に向け、地域の文化芸術がさらに盛り上がりを見せる気運となる取り組みとして、鑑賞者数拡大や参加者数の拡大を目指した。温和な気候と公園や広場など体を動かせる場所が多く、スポーツが盛んな地域で、子供たちが日ごろ接することが少ない文化事業に触れられる機会として、オペラ「泥棒とオールドミス」の付帯事業として、子どものためのワークショップ オペラを体験しよう！を実施し、次代を担う後継者の育成に結び付ける内容とした。世代間の交流・地域コミュニティの再生と構築に向け、和歌山演劇大学では約8ヶ月間のプロセスの中で、コミュニケーションスキルや協調性を育み、中学生～70代までの3世代が演劇を通じた世代間の交流を体験、落語公演では、ふるさとの魅力を題材とした演目による地域に対する愛着心を育む取り組みから地域コミュニティの再生に取り組んだ。地域の文化拠点としての社会的役割や地域の特性に基づき、普及啓発事業を組み立て、概ね当初の予定どおり実施することができた。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>幅広い市民がチケットを購入できる価格設定と無料招待、0才から入場可能など市民の鑑賞機会の拡大を図った。地域の実演芸術団体による公演の実施は、プロの演出家を招いての市民オペラによるオペラ公演、講師を招き演奏力向上講習会の実施により演奏力に磨きをかけた市民オーケストラによる演奏会は、市民に質の高い実演芸術の鑑賞機会を提供し、鑑賞者のアンケート結果からも高い評価を得たことは、本事業を通じて市民オペラ・市民オーケストラの育成効果も十分認められた。</p> <p>点字チラシ・プログラムの作成や身体障害者連盟などとの連携により付添人も含む視覚障害者の無料招待、字幕付きのオペラ公演、演劇大学公演での台本貸出サービス、英訳チラシ・プログラムの作成など、障害者や在留外国人の鑑賞機会の拡大整備に取り組んだ。和歌山演劇大学は約8ヶ月間の演劇講座の中で、コミュニケーションスキルや協調性を育み、年齢・性別・学校・職業・価値観などが異なる参加者がお互いを理解し、演劇を通じた“つながる”を体感し、この経験は社会においても活かされる。落語公演では和歌山妖怪という新たな切り口で創作落語を行い、それぞれの地域の身近に存在する妖怪からふるさとの魅力を伝えた。</p> <p>無料通信アプリのビデオ通話機能を利用し、お稽古場所から離れた場所での見え方・聞こえ方・伝わり方について検証し、将来の運用に向けた取り組みを行った。お稽古場所は、とてもデリケートな場所であることから運用は慎重にすすめるなければならないが、お稽古に参加できない受講者や復習教材として録画映像を動画配信サイトを活用して視聴するなど情報通信技術の利用は既に始めている。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

実演芸術を地域社会と結び好循環させることによって地域の文化の普及促進を図り、人々の心豊かで創造的な活動の活性化を目指した。多くの市民が実演芸術を通して、喜びや感動体験を享受することが重要と考え、毎年度の目標入場者数を設定し、その増加に取り組んだ。

目標① 多くの市民が実演芸術に触れ、喜びや感動体験を享受するために、入場者数の増加を図るとして、目標値3,000人を設定し、入場者数増加への工夫や取り組みを行い実績値3,006人で、目標値を達成した。和歌山演劇大学事業で、鑑賞教室事業の入場者数が加わり顕著な伸びがあったほか、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会事業では、目標値に届かなかったが対前年比113%増の90人増の伸びがあった一方、オペラ公演は前年比の同水準の入場者数に留まり、ふるさとの魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館は、コロナウィルスの影響により大幅に入場数が下回る結果となった。

目標② 次代を担う子供たちへの普及啓発。スポーツが盛んな地域で、実演芸術に今まで出会う機会の無かった子供達も知る・見る・体験することが出来る教室やイベントの開催により、子供の参加人数の増加を図るとして、目標値80人を設定し、子供を対象とする事業全体で実績値314人と目標を達成した。

子どものためのワークショップ オペラを体験しよう！では、実績値が目標を大きく下回る結果となったが、4校の小学校の高学年のクラスを中心に計10クラスで実施した出前演劇体験教室の受講生徒数、市内の中学校全校生徒にチラシ配布した和歌山演劇大学体験入学への中学生の参加者数が加わり、目標を達成した。

目標値を下回る結果となった、子どものためのワークショップ オペラを体験しよう！は、夏休み最初の日曜日に実施したため地域で多数開催された子向けイベントと重なったこと・一昨年の小ホールでの開催から練習室に場所を変更したことなどが、参加者数減の要因と考えられ、令和2年度では改善して実施する予定である。

目標③ 障害のある人も実演芸術による喜びや感動を享受できる環境整備への取り組みとして、視覚障害者や聴覚障害者の入場者数拡大を目指し、目標入場者数10人と設定した。点字チラシ・プログラムの印刷、関係団体を通じた広報・視覚障害者の付添人も含めた無料招待、オペラの字幕公演や和歌山演劇大学の発表公演では台本貸出サービス（スマートフォンでも閲覧できるようにPDFデータでの貸出も含む）など、身体障害者の方の鑑賞機会の拡大を図った結果、普及啓発事業全体で視覚障害者と聴覚障害者の方の入場者数が、実績値8人と目標値を下回った。実績値には反映されなかったが、今年度から和歌山演劇大学の発表公演では身体障害者の割引料金設定を行い、11枚の購入があったことから今後の入場者数拡大に期待できます。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

#### オペラ「泥棒とオールドミス」

6月中旬の演出家との打ち合わせから、舞台美術の製作、7月後半からは演出家が現場に入っの稽古期間を経て公演を迎える短い事業期間での実施であったが、可能な限り作品の完成度を求め、レベルの高い仕上がりになったことは、観客のアンケート結果からも伺える。とくに市民オーケストラにとっては、メノッティ作曲の難曲オペラ「泥棒とオールドミス」への挑戦で、公演直前まで幾度と熱のこもった練習を重ね、出演者・裏方スタッフも含め全員の奮励が作品の完成度を高めた。子どものためのワークショップ オペラを体験しよう！でも市民オペラを講師に起用し、当初計画どおりの事業実施となった。

#### 和歌山演劇大学

従来、複数年参加する受講者の割合が多かったが、一昨年の体験入学の開始を機に新しい参加者の増加、若い世代の増加など盛り上がりを見せる一方、指導時間の更なる不足が課題となり、その解決に今年度は事業期間を延ばし、8か月間の演劇講座の期間を設定した。全体の講座回数は前年度と同数程度の実施であったが、事業期間を延ばしたことで昨年度と比べ演劇講座の進むスピードを緩やかにになり、参加者の演劇に対する理解度を深められた。基礎講座から時間をかけて指導ができたこと、参加者同士が関わる期間が長くなったことで、受講者がお互いを理解しあい演劇を通じたつながることの深さが増した。

小学校へのアウトリーチ事業「出前演劇体験教室」は想定したクラス数を上回る申し込みがあり、講師と学校との日程調整を行った結果、当初の事業期間で申し込みのあった全ての学校クラスで実施できた。指導するクラス数が増えたことに伴い講師謝金の増加となった。また今後は、希望する学校クラスの増加が予想されることから、児童に演劇指導ができる講師の育成などの課題も見つかった。

#### ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館

お笑い好きの地域に合わせた落語公演を新作和歌山弁落語の制作から公演までを予定通りの計画で進捗した。当初未定であった他の出演者が決定し公演内容などを打ち合わせする中で、出演料や舞台製作費などが当初計画した事業費を下回る金額で実施することができた。落語公演から地域の魅力の発掘・発信・伝承が行え、公演鑑賞から年齢層の高い世代に刺激を与え、昔話と共に地域の魅力を次の世代へ伝える伝承効果も併せて求めました。

#### 和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会

当初予定した5月から10か月間、合計10回の演奏力向上講習会を実施し、市民オーケストラとして地域で活動する和歌山市交響楽団の演奏力向上に努め、2月11日に開催した和歌山市響合唱団・中学校合同合唱団との演奏会の完成度を求めた。各楽器間の音が良く聞こえるホール特性を活かし、各パートのバランス・リズム・フレー징の統一等まとまりを意識した指導に加え、講習にはアンサンブル難易度の高い題材を扱い、オーケストラ技術力の向上を求め、団員それぞれの問題点や課題の克服にも取り組めた。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

国民誰もが等しく受けられる権利として文化芸術による喜びや感動は人を元気にし、まちの元気につながる！とし、地域の文化拠点として、多様な文化芸術の普及促進や成熟度を高めるなど、市民のやりたい・見たいを実現し、誰でも文化芸術に触れられる機会の創造に取り組んだ。

#### オペラ「泥棒とオールドミス」

演出家の岩田氏を招いた地域の市民オペラによる本格的なオペラ公演は、幅広い市民が気軽に優れた舞台芸術に出会い・触れる機会となったほか、岩田氏による音楽とマッチングし、より密接な演出+今のオペラの最先端を盛り込んだ演出に、「泥棒とオールドミス」作曲のメノッティの緻密な音楽が合わさったオペラは、出演した市民オペラ・市民オーケストラにとって他では体験できない経験で、表現力や演奏技術力の向上に大いに繋がった。子どものためのワークショップ オペラを体験しよう！では、和歌山市民オペラ協会に在籍するソプラノ歌手・ピアニストらによるワークショップで、参加した小学生らは専門的な発声を学び、音楽に対する理解を深め、創作オペラ「羽衣伝説」を歌い表現することなど豊かな体験となった。

#### 和歌山演劇大学

和歌山演劇大学は、市民が演劇を始められる・学べる・続けられる場であり、演劇の素晴らしさを伝え、演劇を通じた地域住民の社会参加を促す取り組みや演劇を軸とした地域コミュニティづくりを推進する役割を担います。文学座の加納氏、青年劇場の佐藤氏を講師として招き、初心者でも良くわかる豊富な受講内容で、発声・身体表現など演技・演劇の基礎から発表公演まで充実のカリキュラムでトップレベルの指導を受けられる内容で実施した。小学校へのアウトリーチ事業「出前演劇体験教室」は、自主公演の製作演出から他の催しの演出まで地元で幅広く活躍する劇団ノスタルジア代表：岡崎氏と同劇団の川崎氏を講師に招き実施した、子供達を取り巻く環境によっては出会う機会のなかった演劇に触れられる機会をつくり、表現することやコミュニケーションの豊かさを体験した。

#### ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館

五代目桂文枝に入門し、平成10年に上方落語の名跡「二代目枝曾丸」を襲名した和歌山市出身の落語家 桂枝曾丸氏は、地元和歌山を中心に活動し、和歌山のおばちゃんに扮して地元テレビ局などに出演していることから「和歌山のおばちゃん」で親しまれている存在である。地域コミュニティに重要な方言を活かした和歌山弁の創作落語や故郷の魅力として和歌山妖怪を題材とした創作落語など地域の魅力を活かし、親・子・孫3世代が、いっしょに鑑賞できる内容で実施した。

#### 和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会

木ノ原氏を講師に当館ホールを使った和歌山市交響楽団演奏力向上講習会の実施から和歌山市響合唱団と中学校合同合唱団との合同演奏会を行った。地域で唯一の市民オーケストラによる演奏会は市民が気軽にクラシック音楽に触れられる機会をつくり、オーケストラ演奏と合唱の歌声が観客を感動させた。中学校合同合唱団の生徒にとってもオーケストラとの合同演奏会は1つの目標であり大変貴重な体験となった。



## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながっていた（と認められる）か。

### オペラ「泥棒とオールドミス」

鑑賞者拡大の取り組みとして、オペラを初めて鑑賞する市民や鑑賞機会の少ない市民にも物語が分かりやすく、幅広い年齢層がオペラの魅力や楽しさが味わえる作品として、オペラ「泥棒とオールドミス」を選択・構成し、日本語訳で開催いたしました。日本語字幕上演を併せて行うことで、物語がより分かりやすい公演となり鑑賞者全体の満足度アップや聴覚障害者の鑑賞機会の拡大に繋げ、地域で催される他の公演鑑賞への足がかりになるなどの波及効果を求めます。

### 和歌山演劇大学

プロの劇団より俳優・演出家を講師として招き、初心者でも良くわかる豊富な受講内容で、発声・身体表現など演技・演劇の基礎から発表公演まで、充実のカリキュラムで約8か月間指導いたしました。発表公演は、大勢の観客の前で行い、本格的な舞台に立つ喜びを実感するとともに、約8か月間のプロセスの中で、コミュニケーションスキルや協調性、他者を想像する力を育み、受講生がお互いを理解し合い、演劇を通じた“つながる”を実体験しました。演劇大学の体験入学を実施し、参加者拡大を図り、特に中学生が演劇を体験できる機会の拡大を重点に、体験入学の広報には市立中学校で全校生徒へのチラシ配布の協力をいただいた。出前演劇体験教室では小学校高学年の児童が、演劇や表現することの豊かさを体験し、演劇のエッセンスを用いたコミュニケーションゲームや短いお芝居を経験することで他者を想像し、メッセージを伝える力・受けとる力を育みました。和歌山演劇大学（ワークショップ）において昨年に引き続き、IoTの活用に向けた取り組みとして、今年は無料通話アプリのビデオ通話機能を使った試験を行い、参加者の表情や動き、台詞などの伝わり方などについて検証しました。

### ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館

地域コミュニティの創造と再生、伝統芸能や大衆芸能の普及促進・人材育成発掘などを目的に、地域コミュニティに重要な方言を活かした創作落語、地域の持っている魅力として和歌山妖怪に着目した落語のほかロビーにて和歌山妖怪の掛け軸を展示するなど故郷の魅力としての和歌山妖怪を伝えました。演目を子供に人気のある妖怪とすることで、対象鑑賞者の年齢層を広げ、今まで落語を観たことがない子供～年配層までの3世代がいっしょに鑑賞できる催しとすることで、入場者数の拡大を図った。コラボレーション企画として、地元紙のニュース和歌山で毎週土曜日に掲載の「マエオカテツヤの妖怪大図鑑」原作者のマエオカテツヤ氏考案のクイズによる落語×和歌山妖怪キッズ・クイズラリーを開催し、故郷の新たな魅力として和歌山妖怪を伝えた。

### 和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会

クラシック音楽・オーケストラ演奏の鑑賞機会拡大として、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会の入場料を安価に抑え、未就学児については鑑賞料無料（0才から入場可能）とし、さらに市内中学校に無料招待券を配布するなど鑑賞者の増加を図りました。益々増加が予想される外国人との共生社会の実現に向けた取り組みとして、文化芸術が“繋げる”をキーワードに歴史的背景や国籍・宗教、政治思想などが異なっても、地域に暮らす外国人と相互理解を深められる取り組みとして、訪問演奏会の実施、演奏会での英訳チラシ・プログラムの作成などクラシック音楽・オーケストラ演奏を活用します。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展した（と認められる）か。

普及啓発事業のオペラ「泥棒とオールドミス」、和歌山演劇大学、和歌山市交響楽団・市響合唱団演奏会、ふるさと魅力発見！桂枝曾丸のわかやま芸品館において設定した当初の目標達成に向け、地域の実演芸術団体や各関係機関などと協力し取り組んだ。当初の目標に達しなかった部分については、問題点の洗い出し、事業内容の改善・実施などPDCAサイクルを機能的に回し継続的な改善に取り組めます。

事業の継続的な改善・さらなる強化を目指していくため、PDCAサイクルをマストアイテムとして、それらを実践・活用できる専門的な人材の育成に取り組んでおります。和歌山市民会館では、全国劇場・音楽堂等職員アートマネジメント研修等の受講などによる職員のスキルアップ、また劇場・音楽堂等への支援員の派遣による支援を受け、事業企画・立案、運営等の幅広い助言などから着実に地域に貢献する文化事業を展開してまいりました。今後は、より専門的な人材育成を進めるため、事業企画・立案、運営等の経験を計画的に重ね、在籍年数や経験値に応じた事業を担当し、ノウハウの蓄積・レベルアップを図ります。

地域のステークホルダー（実演芸術団体、文化団体、教育機関、子育てや町づくり活性化などのNPO団体、企業）との関係強化、長期的な信頼を獲得するなど、地域の中核劇場として文化に直接関わりのある地域住民はもとより、直接関わりのない地域住民に対しても文化の恩恵を広げます。

自治体予算が厳しい状況は、公立文化施設など多くの劇場・音楽堂等も抱えている問題であり、助成金の活用、財団独自の収益率向上など財政基盤の強化に取り組めます。